

かねてから要望し、県主公民館分室西側へ建設していただきました待望の新公民館が、井原市をはじめ多くの皆様方のご協力により、ほぼ完成いたしました。

今後備品等の搬入、旧公民館からの物品等の移設など引越し作業を行ないます。つきましては、4月25日(土)の新公民館の竣工式、翌26日(日)に県主町民対象の完成見学会を予定しています。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大等の状況により、開館予定日が変更されることも予想されます。



# 「県主公民館」の完成について

公民館建設推進委員会委員長

岡田 廣康



第23号

発行  
 県の里まちづくり推進協議会  
 県主地区自治連合協議会  
 県主公民館  
 県主地区社会福祉協議会



## 自主防災会に係る 理事研修を終えて

地区社協 藤井 護

総社市下原地区といえは、皆さん覚えていますか？  
 そうです。一昨年の豪雨災害の時、ガス爆発が起こった地区ですが、幸い犠牲者を1人も出さなかった地区です。

12月6日(金)に県主地区社協の理事12名が訪問し、当時の状況や自主防災組織についての説明を受け、質疑応答する内容で研修を行いました。

下原地区自主防災会の副本部長川田さんによると、自主防災の源は「地域力」であると力説しておられます。

下原地区は、8年前に自主防災会を組織され、毎年避難訓練を継続して行い、より実践に即した内容に変更しているとのこと。

当地区は2世代ぐらい前に、豪雨災害により32人の

犠牲者を出しており、災害に対する危機意識が非常に高い地域であるということでした。

従って、自主防災組織を作ることにしても地区民の協力が得やすかったとのことでした。また、各地区自治会長が自主防災組織のリーダーになっており、自治会長は平均7〜8年継続しているとお聞きしました。

わが県主地区でも、自主防災組織づくりに向けて準備・検討している段階ですので、この度の研修が参考になることを期待して止みません。





私たちの現在の生活環境（産業・文化・芸術・経済活動など生活に関わる全て）は、ふるさとを守り続けてきた先人の苦労の上に成り立っています。そして、今を生きる私たちは、先人が守ってきたふるさとを後世に残していく責任があると思います。

しかし、近年大きく変貌した経済活動の影響で若者が都会へと流出したり、少子高齢化の影響を受けたりして、地域の主産業である農業の将来が危ぶまれ、後継者不足が大きな課題となっています。

このような背景の中で、大人を含め、次代を担う子どもたちを巻き込み、少しでもふるさととの農業の将来について考えるきっかけと

するために、これまで「かかしコンテスト」を開催してまいりました。

「かかしコンテスト」を始めたのは、大江まちづくり協議会とともに始めたかかしプロジェクトチームin井原での「ふるさとのかかし」づくりにヒントを得てからです。

平素、地区内の主要道で、交通の安全を見守ったり、児童生徒の登校を見守ったりしているのが「ふるさとのかかし」です、

この「ふるさとのかかし」を題材に地域づくりをさらに拡大して、井原市南部6地域の幹線道路等を舞台に、要所・要所に「ふるさとのかかし」を設置する「かかしロード構想」を計画しています。

「かかしロード構想」は、井原市南部の地域間交流を図る中で、実現によって市内外からの交流人口が増え、観光資源や定住促進へ繋がるのではないかと期待しています。

こんな思いで、井原市南部5地区のまちづくり協議会へ呼びかけて、去る2月2日総勢20名で、「ふるさとのかかし」で地域を活性化している奥播磨かかしの里を訪問しました。

訪問した奥播磨かかしの里は、JR姫路駅から北へ車で約1時間、山に囲まれた小さな集落で住民は9軒に15人しかいない。

わずかな平地に家々が肩を寄せるように立ち、畑で農作業をしている人や納屋で戸を開けようとしている人、網をもつて川をのぞき込んでいる孫とおじいちゃんらしき2人組、バス停のベンチに座っている人もいた。限界集落と聞いていたのに思いのほか大勢の人に会った。でもなんだか

静かで、何か変…人に近づいても動かなかった。そう、それは「ふるさとのかかし」でした。」全部で130体。よくできていました。

「ふるさとのかかし」を作ったのは、高校卒業までは住人だった兵庫県宝塚市の岡上さん。約10年前から手掛けて、今ではSNSで評判になり、連日のように観光ツアーがやってきました。

岡上さんに「かかしの里」



を案内していただきながら「ふるさとかかし」づくりを始め、動機や維持管理、行政や地域との関係、これからの方向性などを聞いていくうちに研修時間が大幅に過ぎてしまいました。そして帰路のバスの中で、一人一人の感想を聞きました。

地元はもちろん、高屋・稲倉・荏原・矢掛からの研修参加者は、総じて、「今日の体験は「ふるさとかかし」をとおして井原市南部6地区を一つのコミュニティとして創り上げていく良いきっかけとなった。急がずできることから進めていけたらと思うと前向きな感想をいただきました。

この研修は、感想にもあったように、急ぐことなく6地区で話し合い「ふるさとかかし作り講座」の開催や「ふるさとかかしの貸し出し」などを行いながら「かかしロード構想」の実現に向けて取り組んでいく良い機会となりました。



# 県主のわだ い



1/14 盛大に開催されたとんとん集會



1/3 新年互礼会



1/25-26 まなびフェスタ



11/7 社協健康講座



社協健康講座

心肺蘇生とAED

社会福祉協議会 西本 興

今年度の健康講座を、11月7日(木)に開催しました。今回は、救命救急講座(AED)を井原消防署の広井消防士長、丸山消防士を講師にお迎えし、3人一組で心肺蘇生とAEDを使い救命措置の勉強をしました。身近な人が目の前で倒れた時、その命を救うのは貴方です。皆さん勇気を持って行う事が大切です。

○心肺蘇生法の手順  
(人が倒れている)

- ①意識の確認
- ②周囲に助けを求める(大声で周囲に)
- ③救急車とAEDの手配を指示する
- ④気道の確保と呼吸の確認
- ⑤人工呼吸
- ⑥胸骨圧迫(心臓マッサージ)



胸骨圧迫と人工呼吸を繰り返す。⑥を30回行ったら、⑤を2回行う。2分間行う。※現在は④と⑤を省略する方向にある。胸骨圧迫(心臓マッサージ)をAEDが到着か救急車が到着まで行う。

○AEDの使い方

- ①音声メッセージに従って操作
- ②ケースから本体を取出し電源を入れる
- ③AEDの電源パッドを体の2か所へ貼ると自動的に心電図の解析を行うので、周囲の人に離れる様に促し、電気ショックが必要な場合はメッセージに従ってショックボタンを押す。

※救急車が現場に到着まで7〜8分かかります。心室細動が起きると数秒で意識



が無くなり、5分後には脳障害が発生し死に至ります。救急車が到着するまでにAEDを施行すれば救命率が数倍も高いと言われています。

救急現場に遭遇した時、手を差し伸べ勇気を出して救命処置を施行しましょう。

編集後記

この度の新型コロナウイルス感染症の影響により、市内及び各地区の定例行事やイベントが中止になり、掲載予定の記事もなくなり通常の半分構成となりました。

各国に蔓延し日本にも広がるなか、岡山県でもとうとう感染者の発症が確認されました。

今まで以上に、外出先や帰宅時には十分な手洗いやうがい、消毒等をしっかり行い感染予防に心がけて下さい。

広報「みんなの県主」では、掲載してほしい記事などを募集しています。

問合せは公民館まで



編集委員  
岡田章文・山本俊和・安藤直樹・森下和美・鳥越千恵子・森本峰子・岡田 忍



県の里まちづくり推進協議会



県の里まちづくり推進協議会のページで「みんなの県主」が閲覧できます。【ホームページ】http://www.agatanosato.jp